

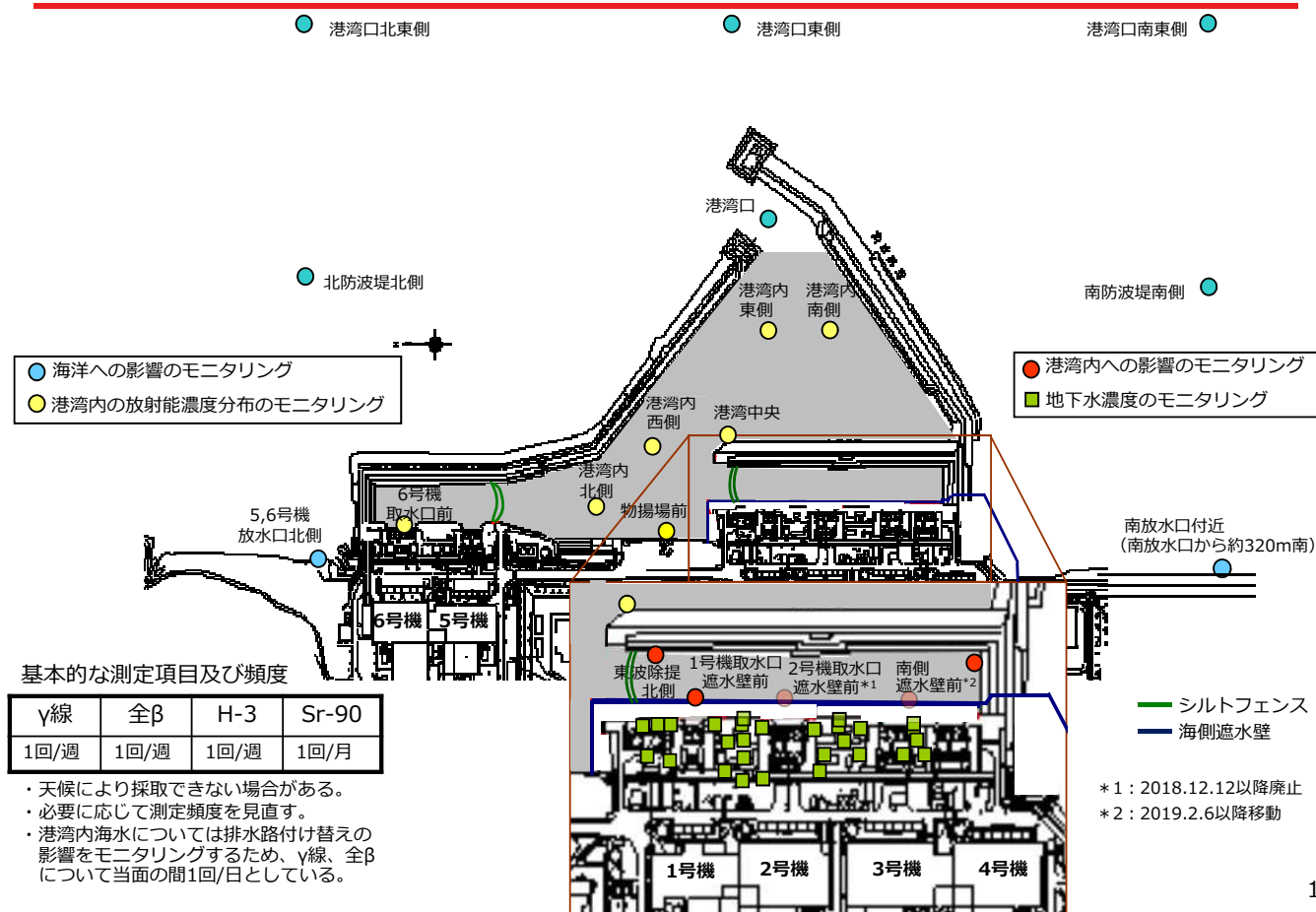
タービン建屋東側における 地下水及び海水中の放射性物質濃度の状況について

2019/2/28



東京電力ホールディングス株式会社

モニタリング計画（観測点の配置）



<タービン建屋東側の地下水濃度>

- 観測点によっては大雨時に一時的な変動が見られるが、全体的に低下もしくは横ばい傾向にあり、大きな変化は見られていない。

<排水路の排水濃度>

- 降雨時に濃度が上昇する傾向にあるが、全体的に横ばい傾向にある。
 - ・ 道路及び排水路の清掃を実施中、排水路及び枝管に浄化材を設置中

<港湾内外の海水濃度>

- 港湾内では降雨時に上昇が見られるが、港湾外では変化は見られず低い濃度で推移している。 ※1
 - ・ 港湾内（取水路開渠内含む）の濃度について、上昇時においても告示濃度を十分に下回っている。 ※2
 - ・ 道路・排水路の清掃、フェーシング、海側遮水壁閉合、取水路開渠出口へのシルトフェンス設置等の対策の効果によるものと考えられる。

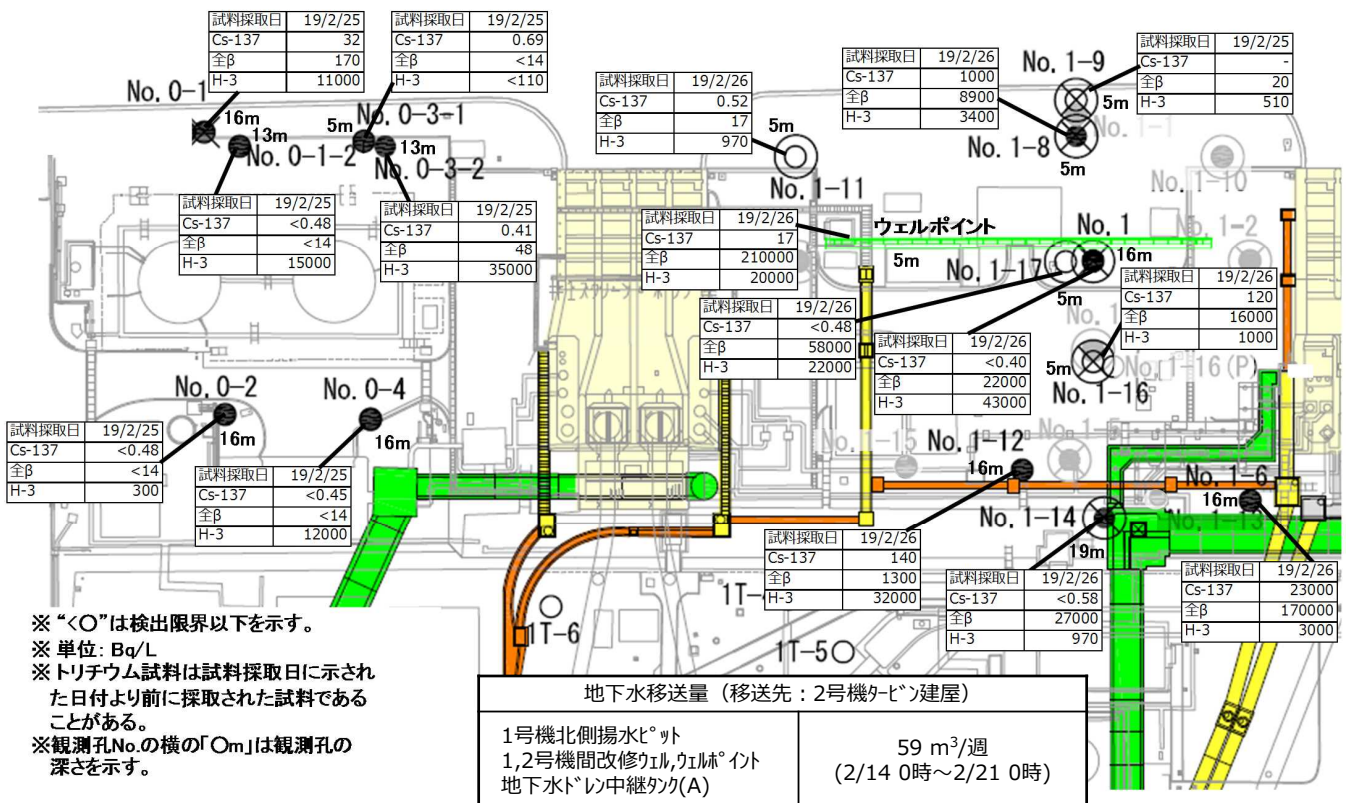
「東京電力ホールディングス（株）福島第一原子力発電所の廃止措置等に向けた中長期ロードマップ」の記載

※1：P.4 3-1. オ「周辺海域の海水の放射性物質濃度については、告示で定める濃度限度や世界保健機関の飲料水水質ガイドラインの水準を下回っており、低い水準を維持している。」

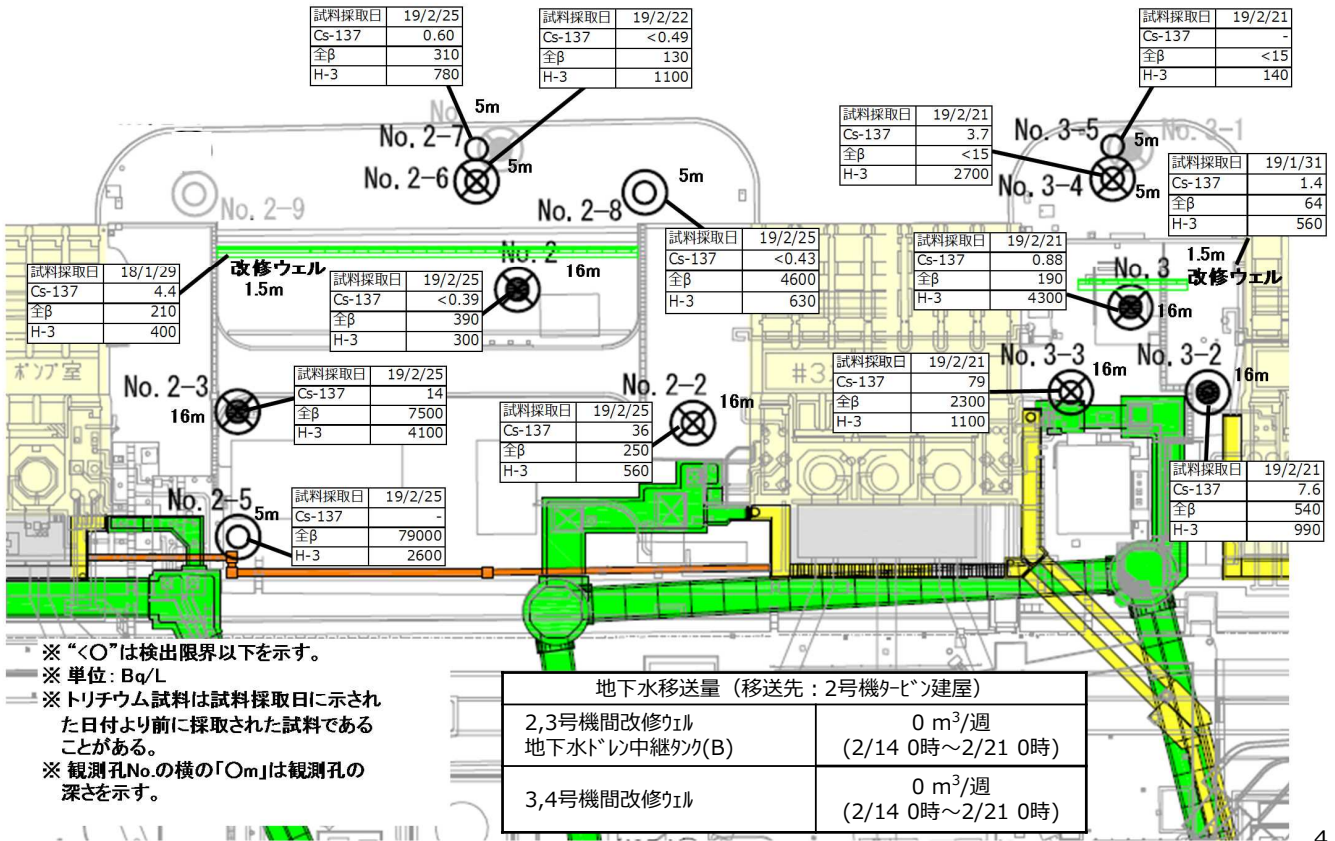
※2：P.22 4-6. (2) ①「港湾内の放射性物質濃度が告示に定める濃度限度を安定して下回るよう、港湾内へ流出する放射性物質の濃度をできるだけ低減させる。」

タービン建屋東側の地下水濃度（1/2）

<1号機北側、1,2号機取水口間>



<2,3号機取水口間、3,4号機取水口間>



4

タービン建屋東側の地下水濃度の状況

<1号機北側エリア>

- No.0-3-1でH-3濃度は2018.10より120Bq/ℓ程度から1,900Bq/ℓ程度まで上昇後低下し、現在上昇前のレベルとなっている。

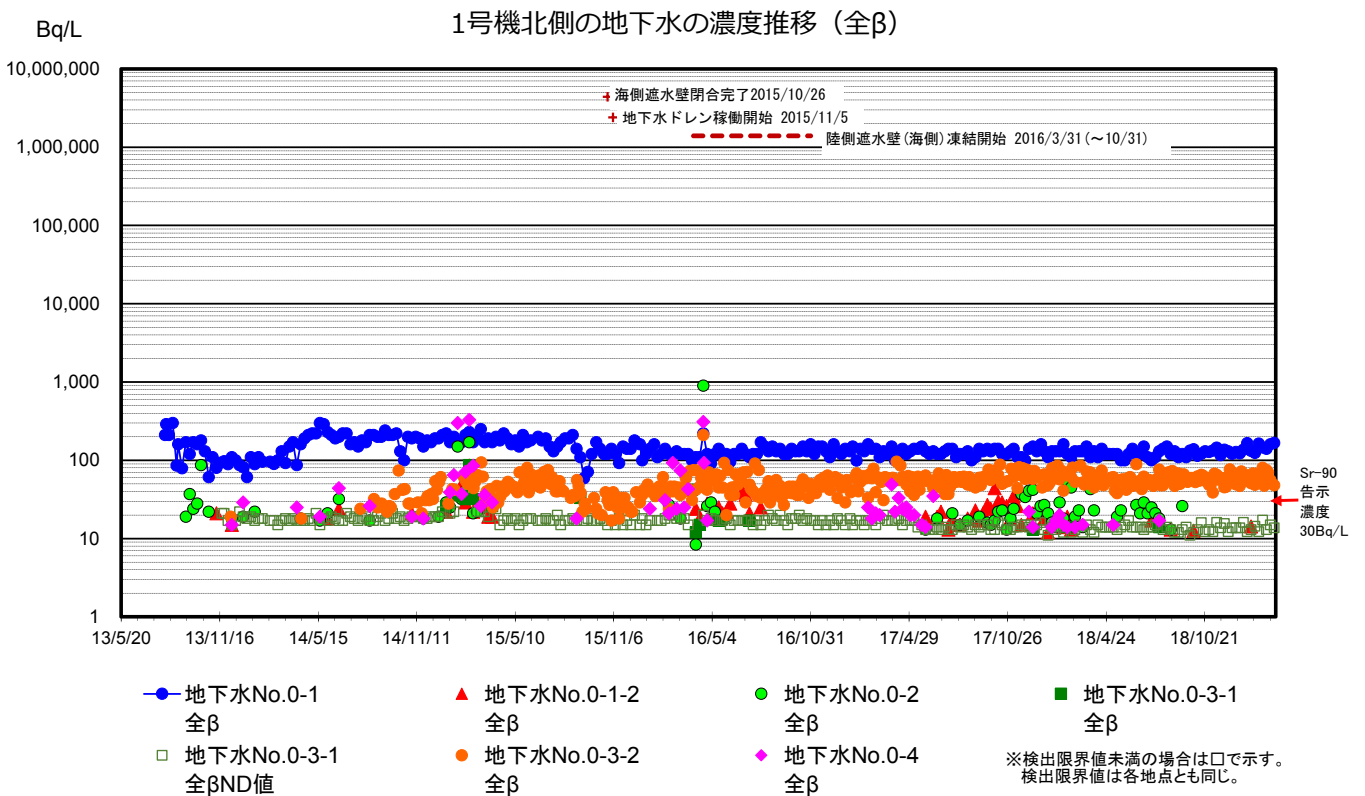
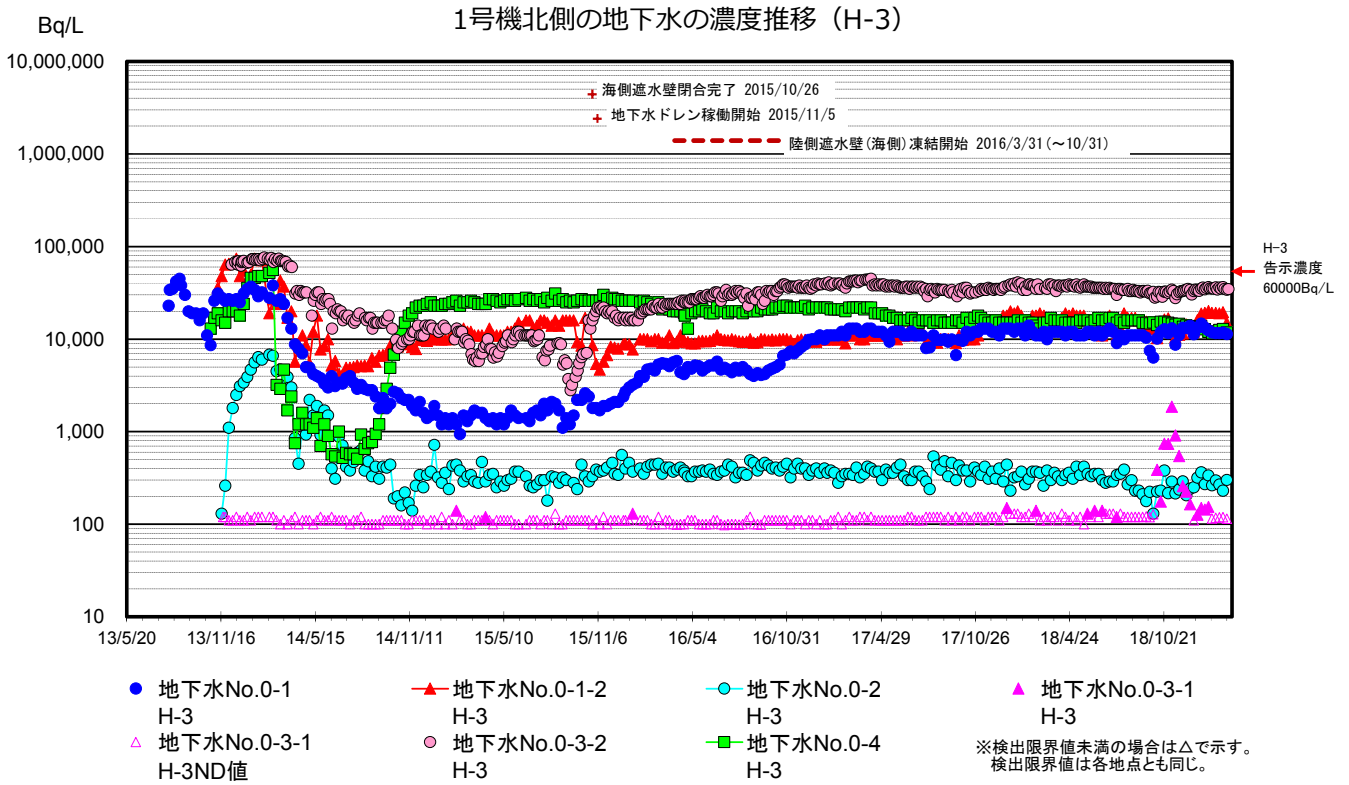
<1,2号機取水口間エリア>

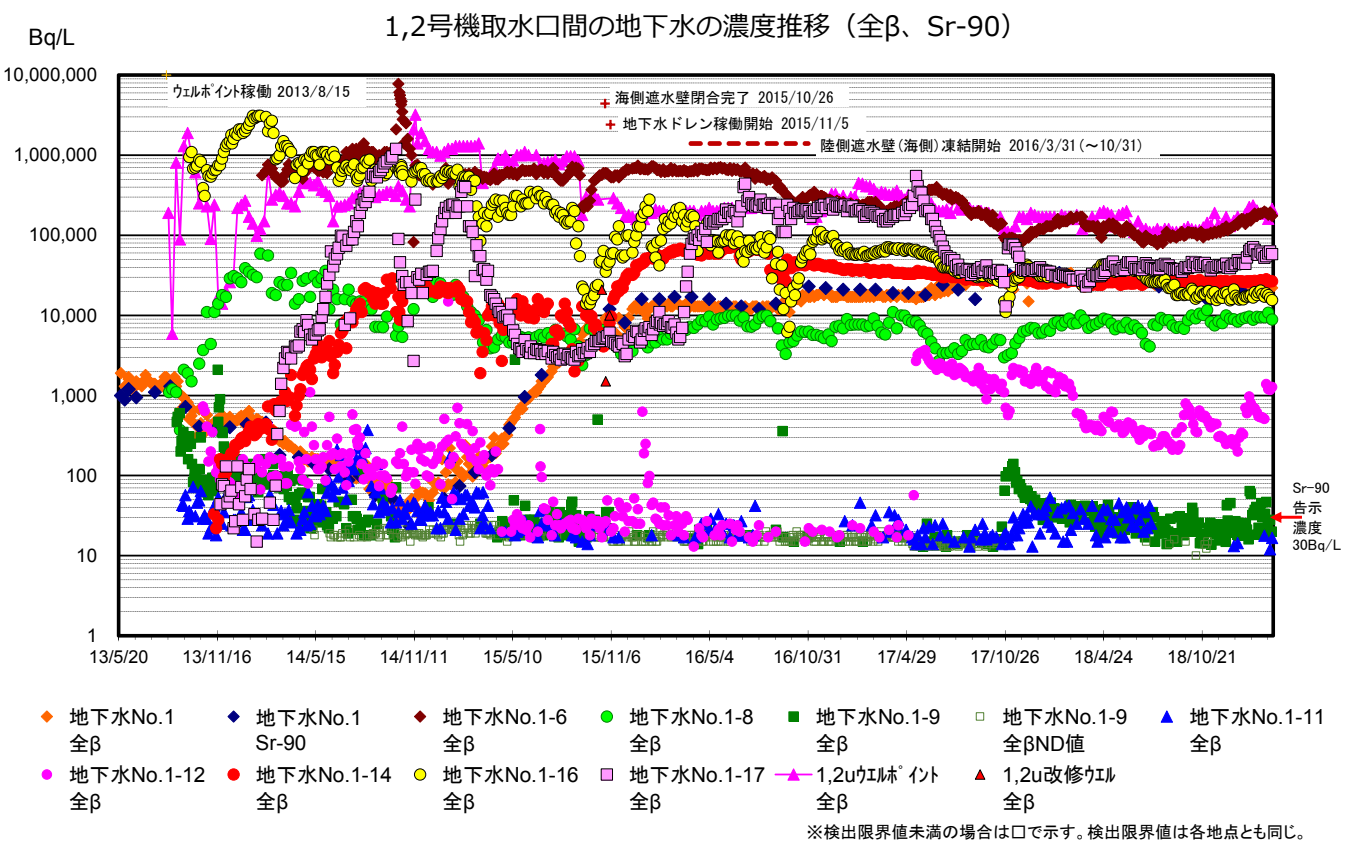
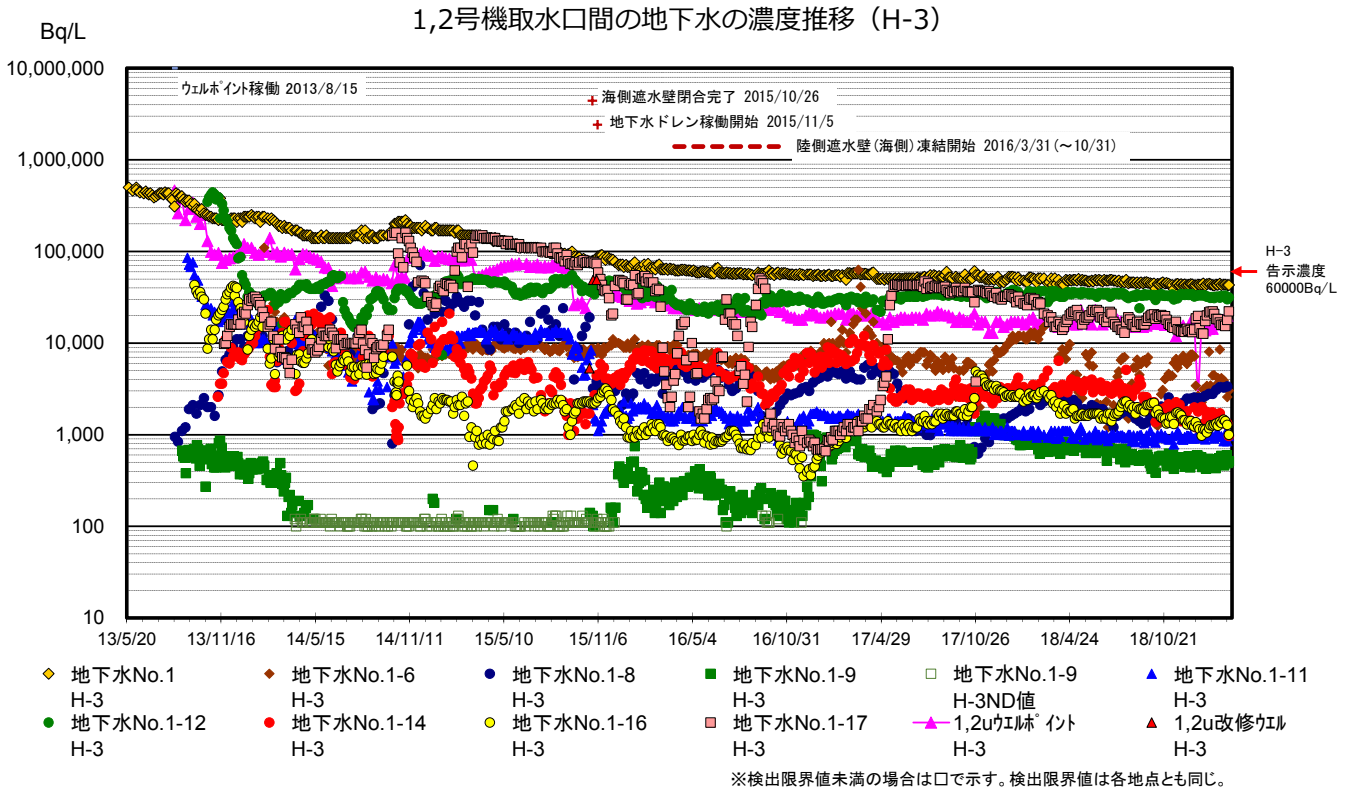
- No.1-6でH-3濃度は2018.3以降低下上昇を繰り返し、現在3,000Bq/ℓ程度となっている。
- No.1-8でH-3濃度は2018.12より2,000Bq/ℓ程度から上昇傾向にあり、現在3,300Bq/ℓ程度となっている。
- No.1-12で全β濃度は2018.9より800Bq/ℓ程度から200Bq/ℓ程度まで低下後上昇し、現在1,200Bq/ℓ程度となっている。

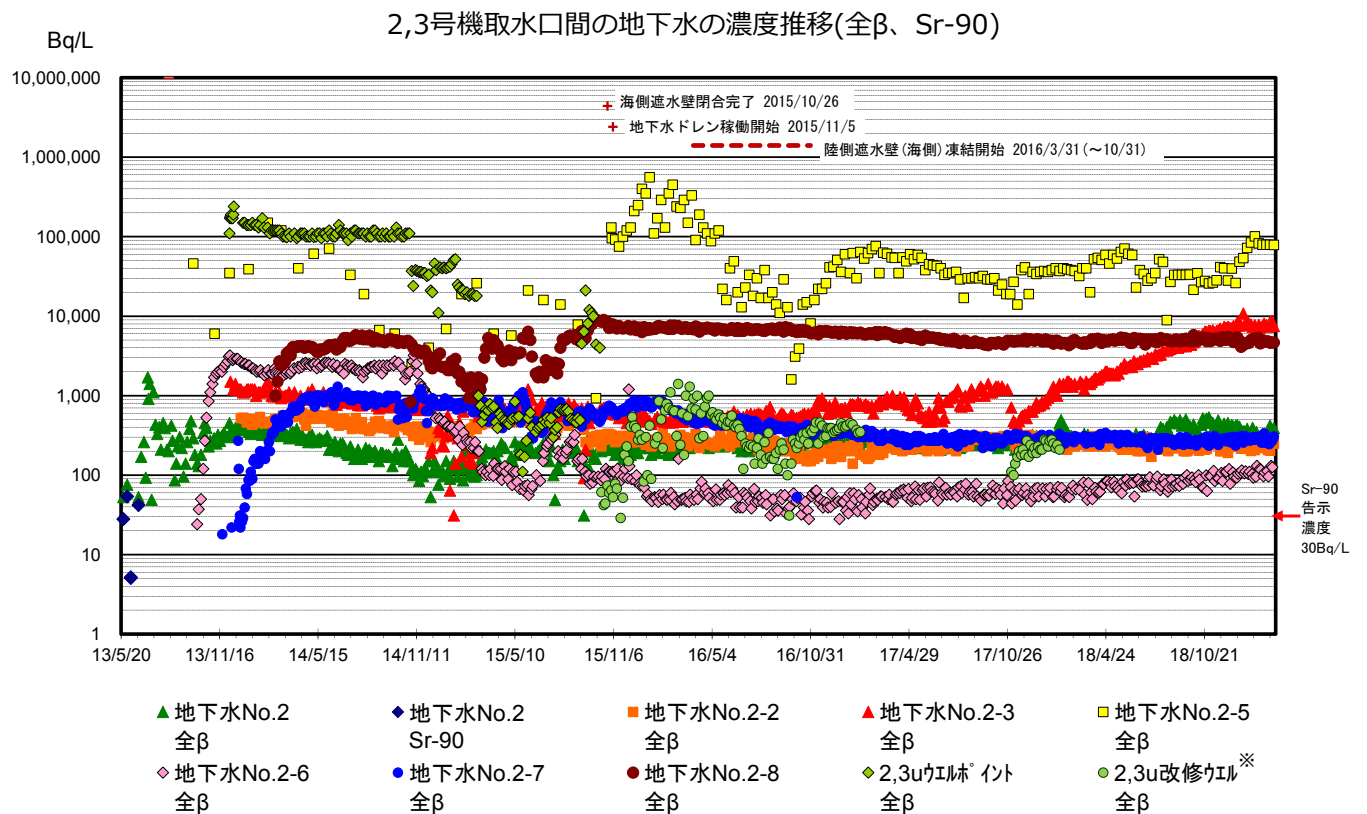
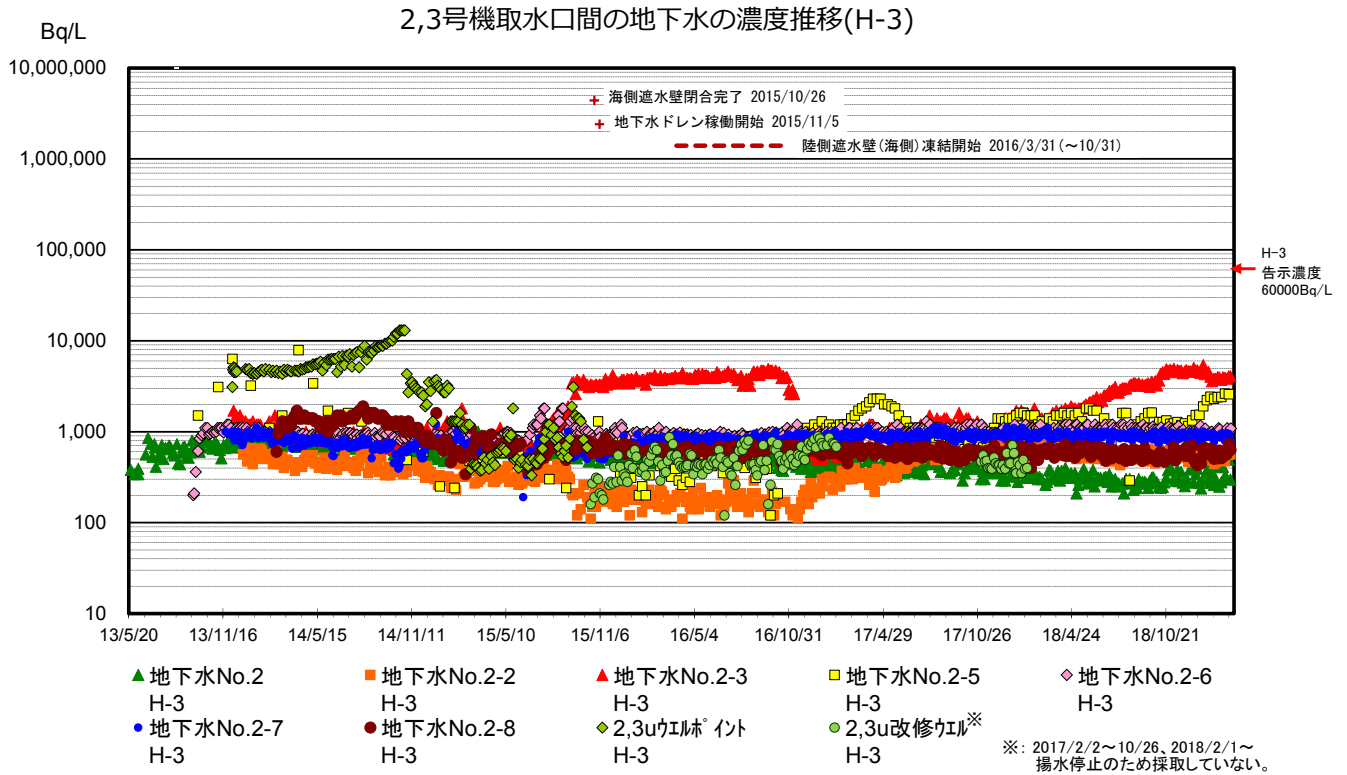
<2,3号機取水口間エリア>

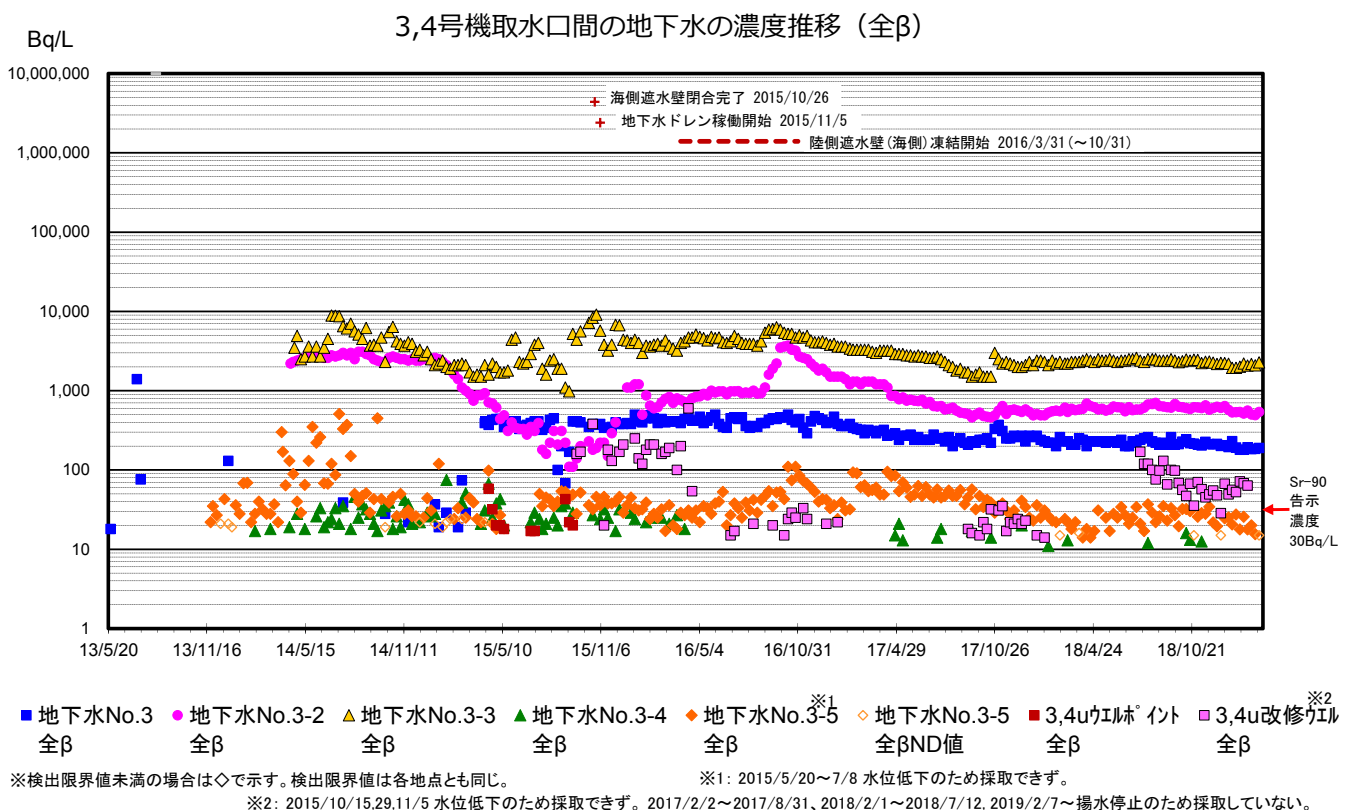
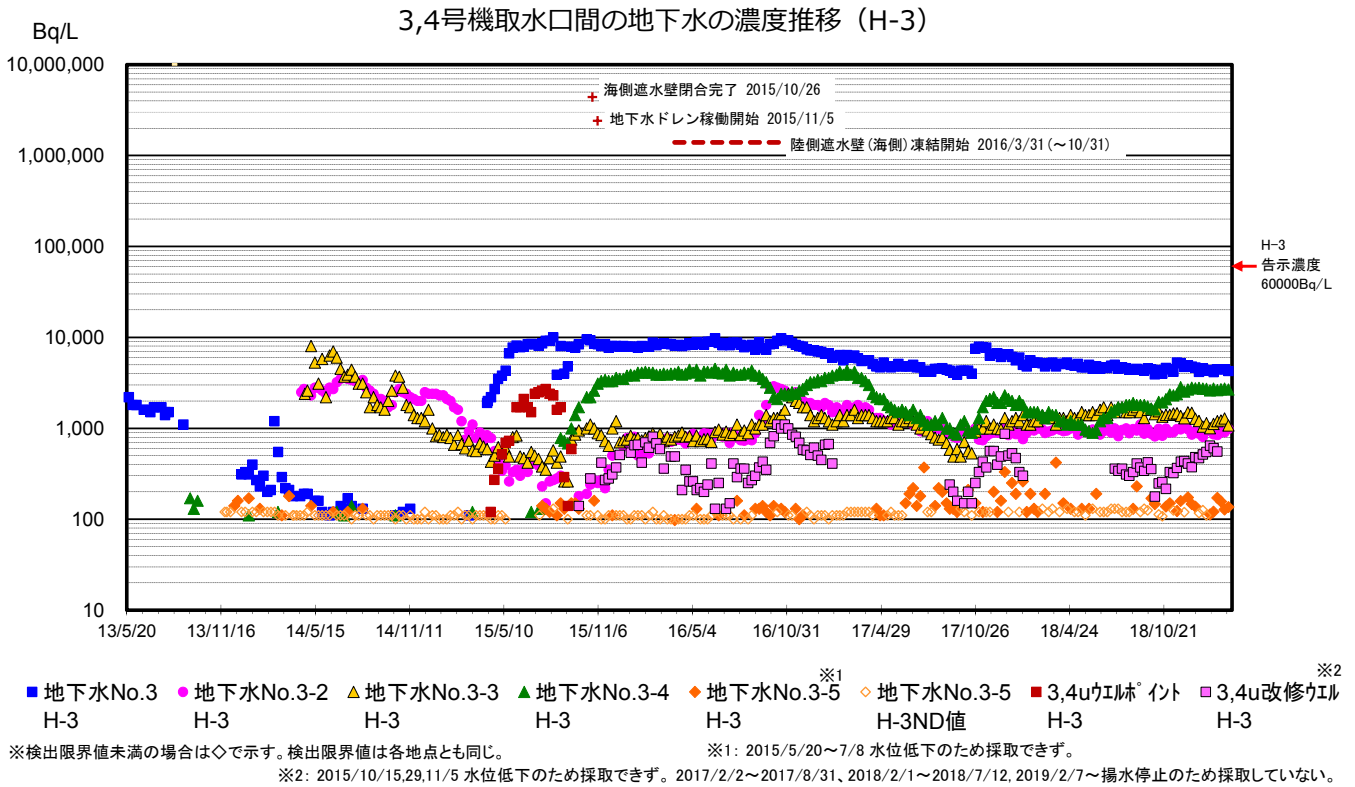
- No.2-3でH-3濃度は2017.11より上昇後5,000Bq/ℓ程度で横ばい傾向にあったが、2019.1以降低下し、現在4,000Bq/ℓ程度となっている。全β濃度は2017.12より600Bq/ℓ程度から上昇し、現在8,000Bq/ℓ程度となっている。
- No.2-5でH-3濃度は2018.12より1,200Bq/ℓ程度から上昇し、現在2,600Bq/ℓ程度となっている。全β濃度は2018.12より30,000Bq/ℓ程度から上昇し、現在80,000Bq/ℓ程度となっている。

5









<A排水路>

- 道路・排水路の清掃を実施中
- Cs-137濃度、H-3濃度、全β濃度とも横ばい傾向となっている。

<物揚場排水路>

- 道路・排水路の清掃を実施中
- Cs-137濃度、H-3濃度、全β濃度とも横ばい傾向となっている。

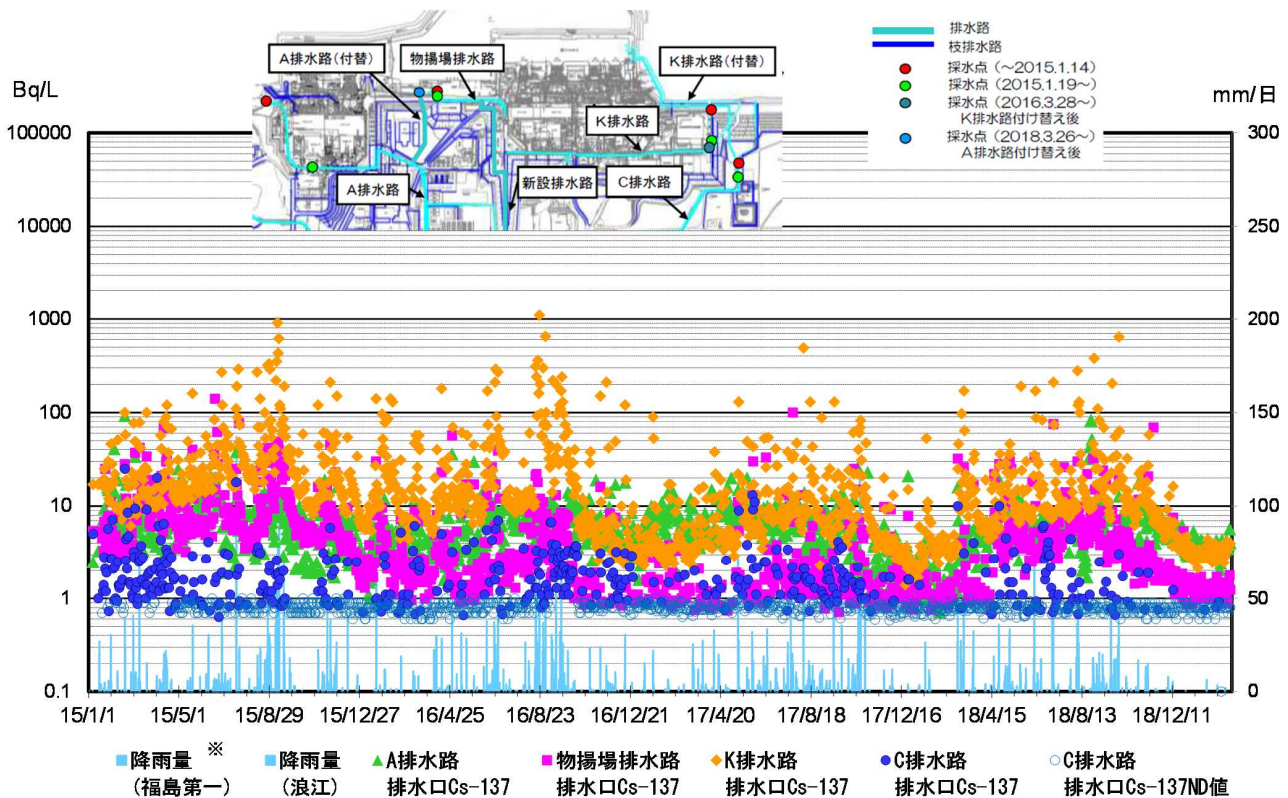
<K排水路>

- 道路・排水路の清掃を実施中、排水路及び枝管に浄化材を設置中
- Cs-137濃度、H-3濃度、全β濃度とも横ばい傾向となっている。

<C排水路>

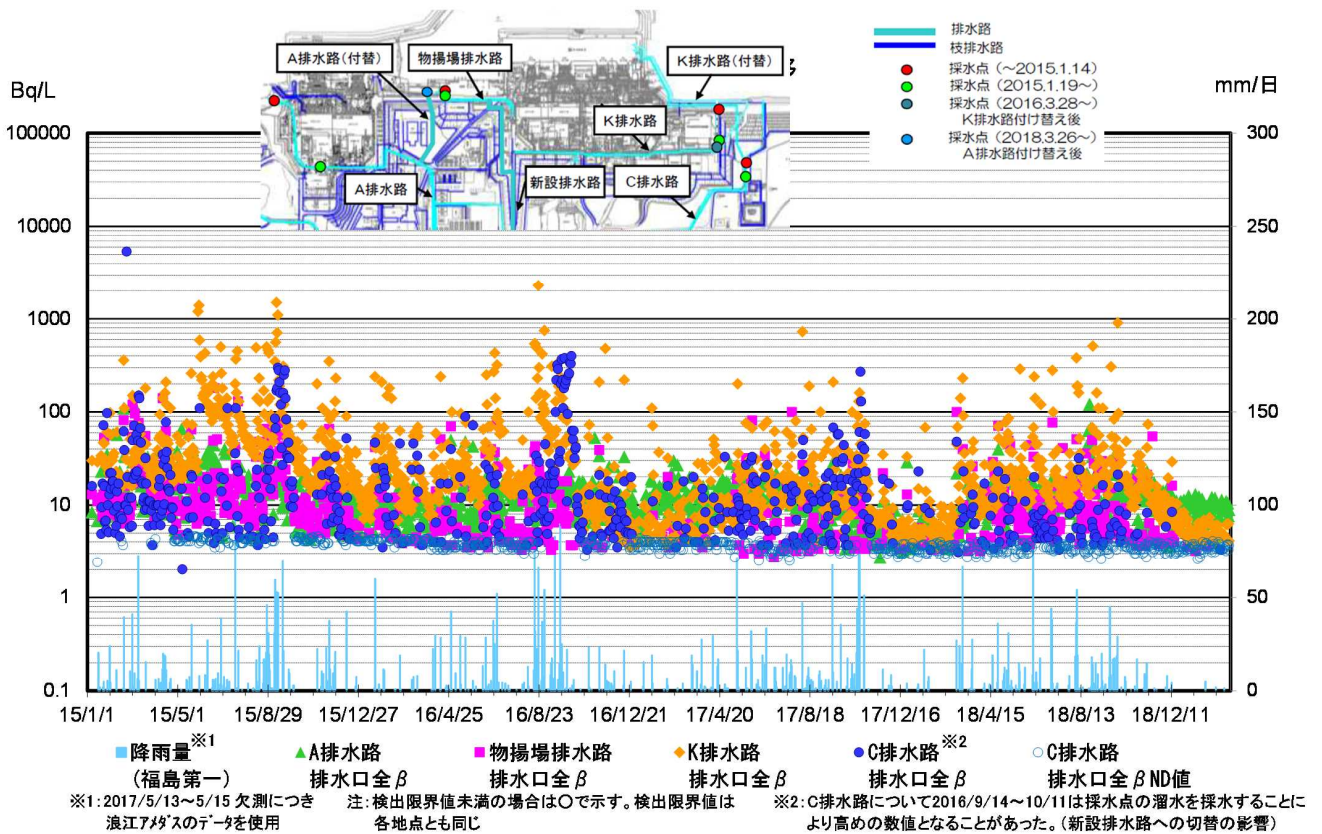
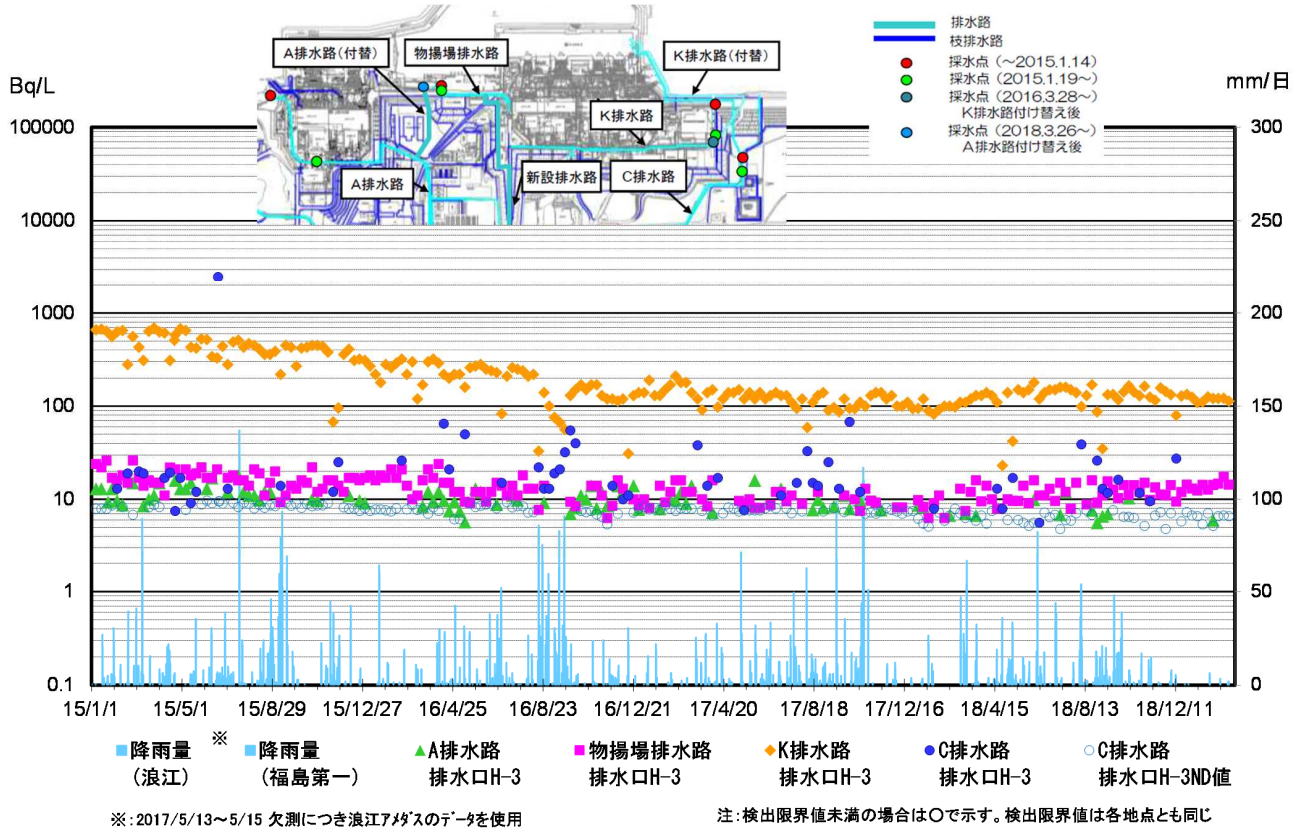
- 道路・排水路の清掃を実施中
- Cs-137濃度、H-3濃度、全β濃度とも横ばい傾向となっている。

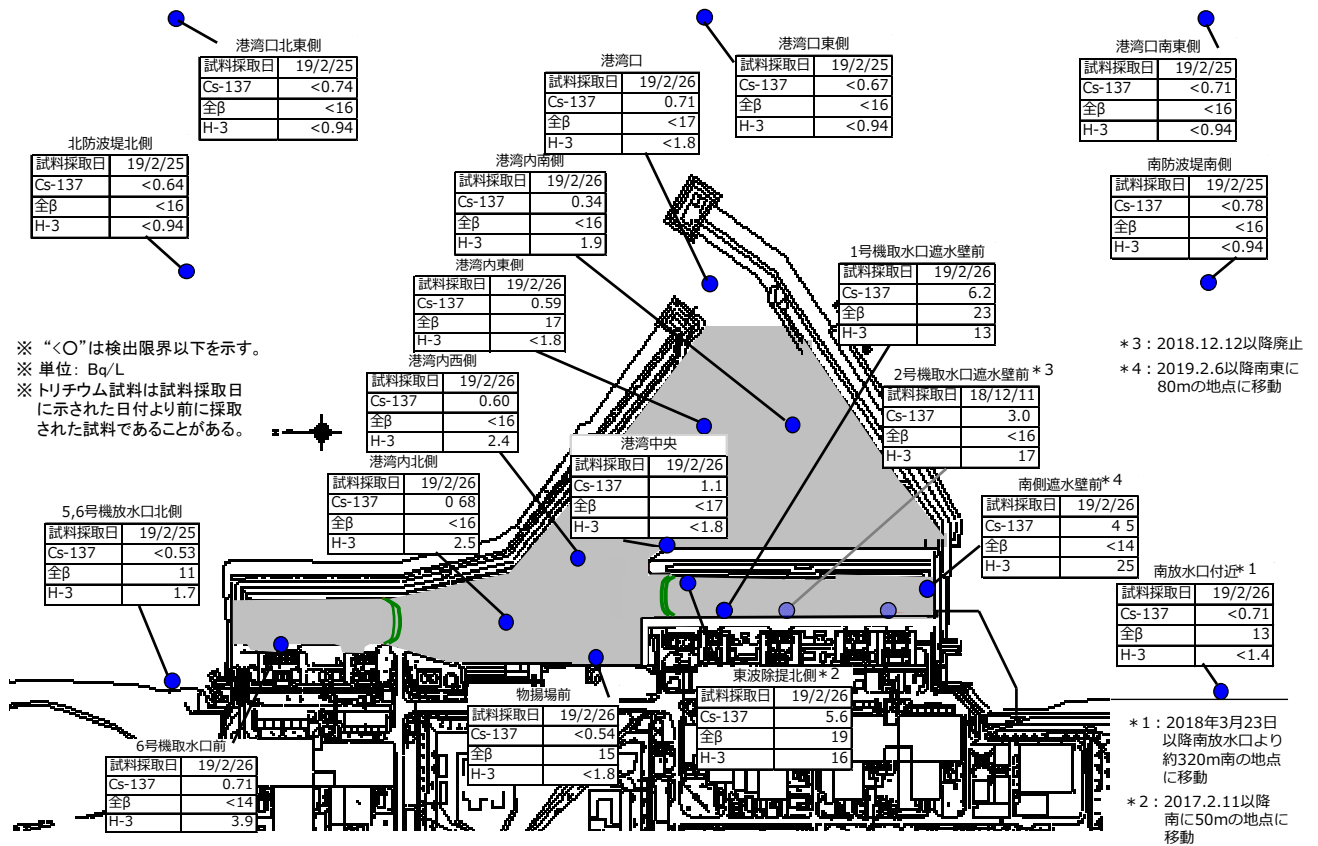
排水路の排水の濃度推移 (Cs-137)



※: 2017/5/13~5/15 欠測につき浪江Aマススのデータを使用

注: 検出限界値未満の場合は○で示す。検出限界値は各地点とも同等





< 1～4号機取水路開渠内エリア >

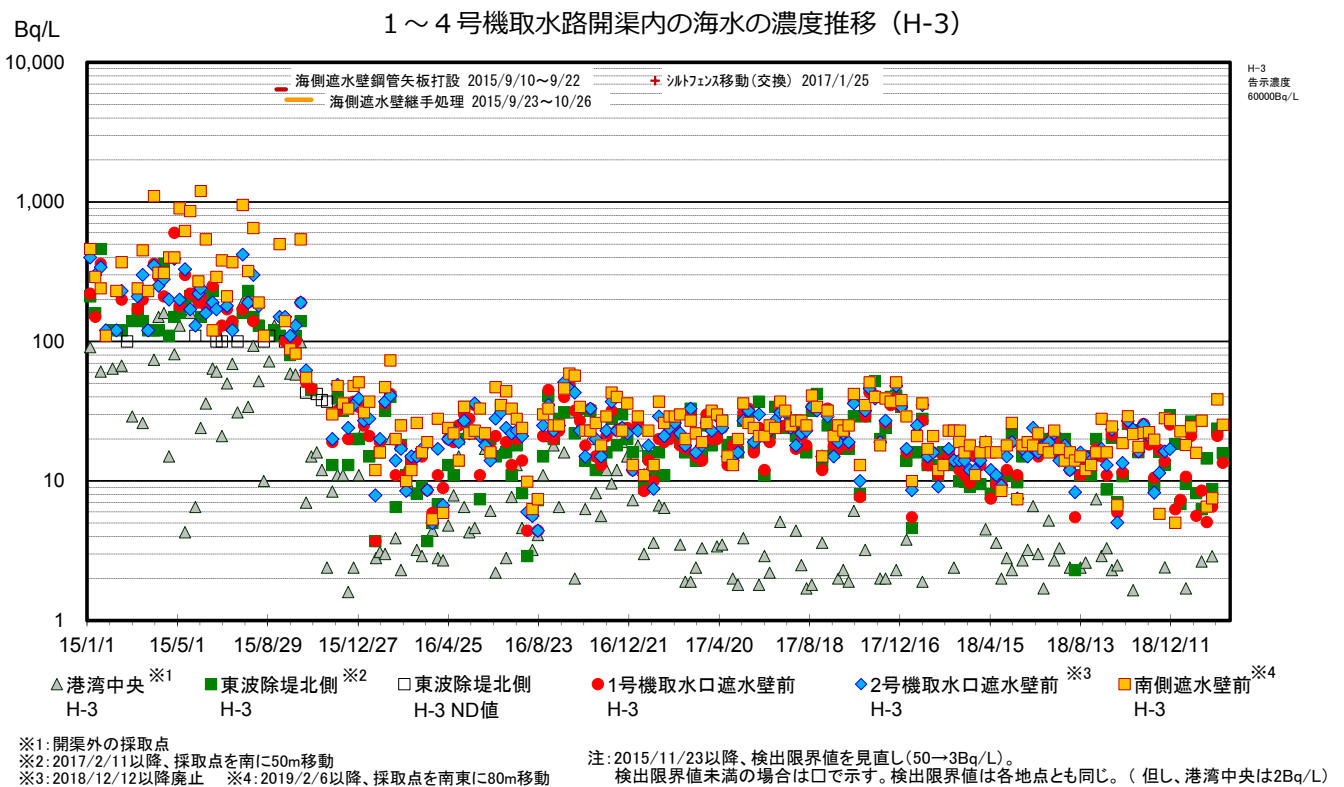
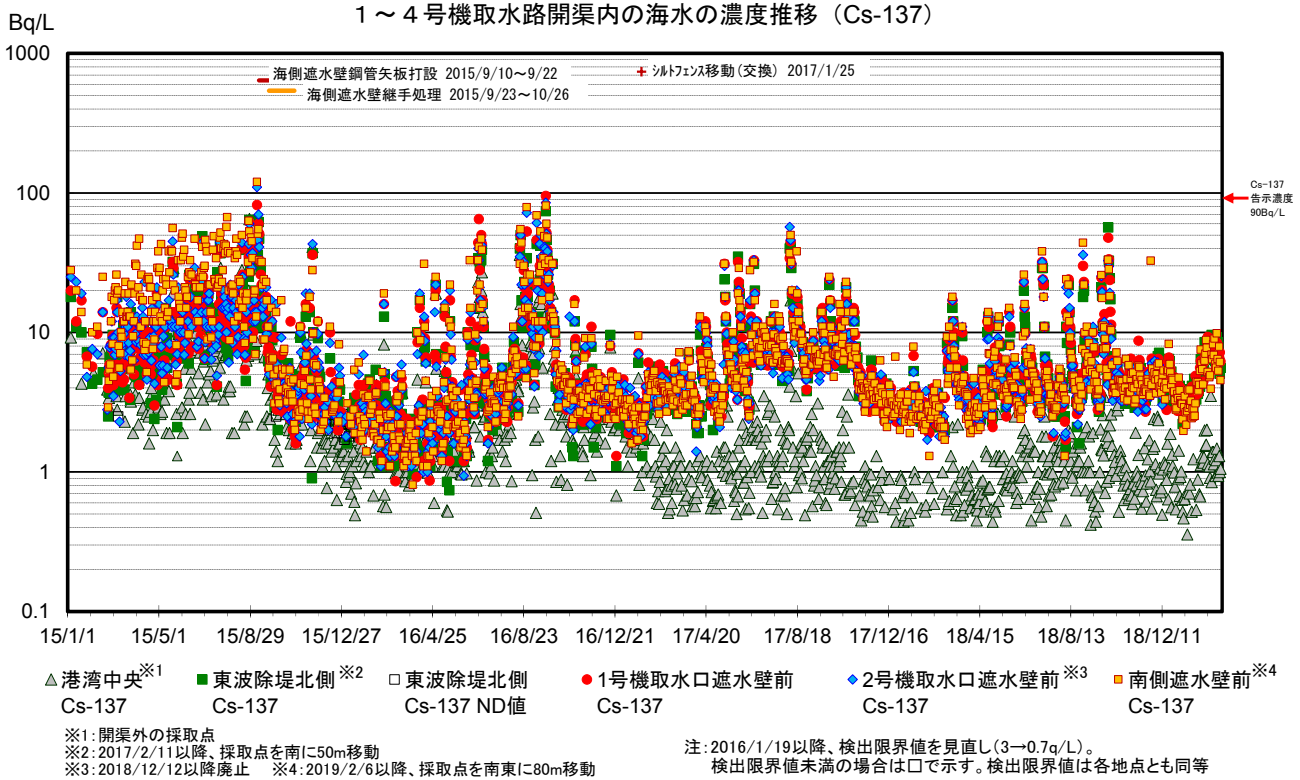
- 告示濃度未満で推移しているが、降雨時にCs-137濃度、Sr-90濃度の上昇が見られる。
- 海側遮水壁鋼管矢板打設・継手処理の完了後、濃度の低下が見られる。
- 位置変更のために新しいシルトフェンスを設置した2017.1.25以降、Cs-137濃度の上昇が見られる。

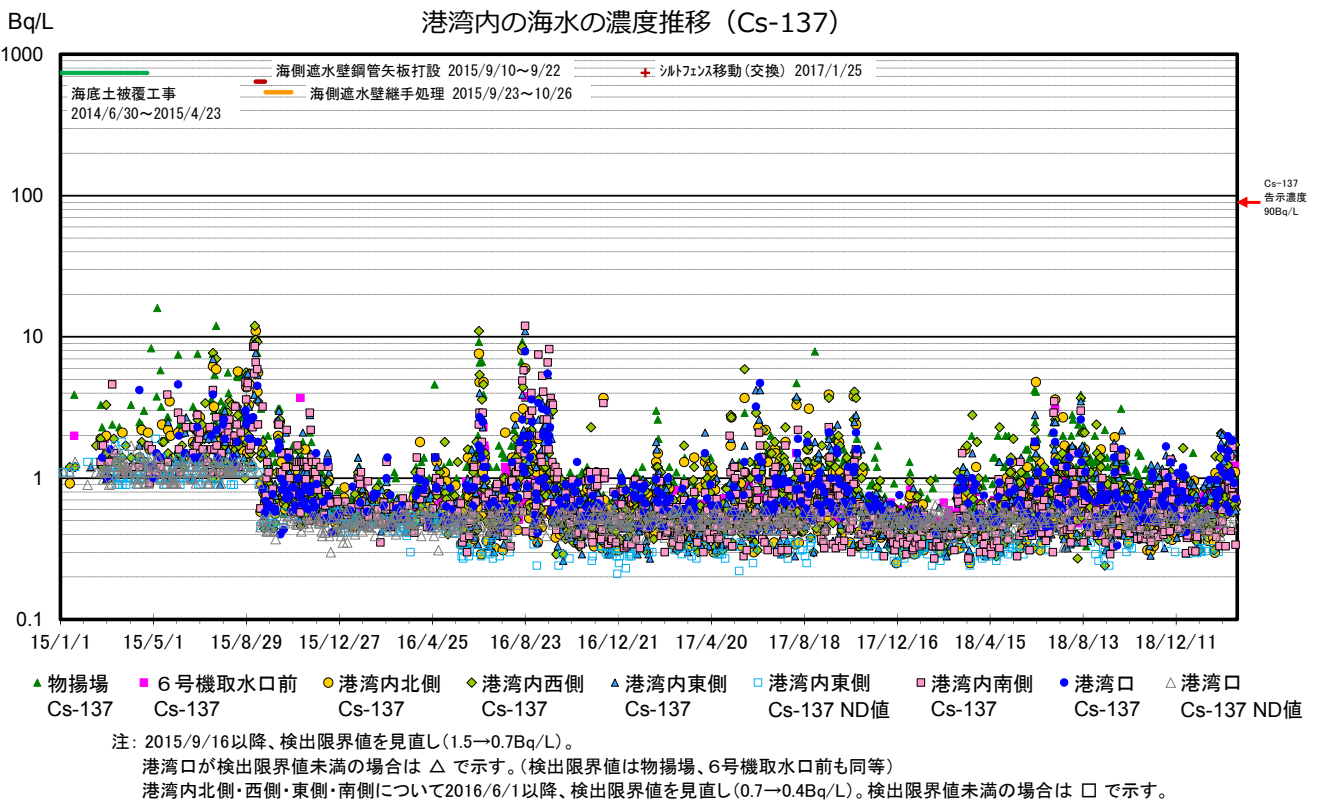
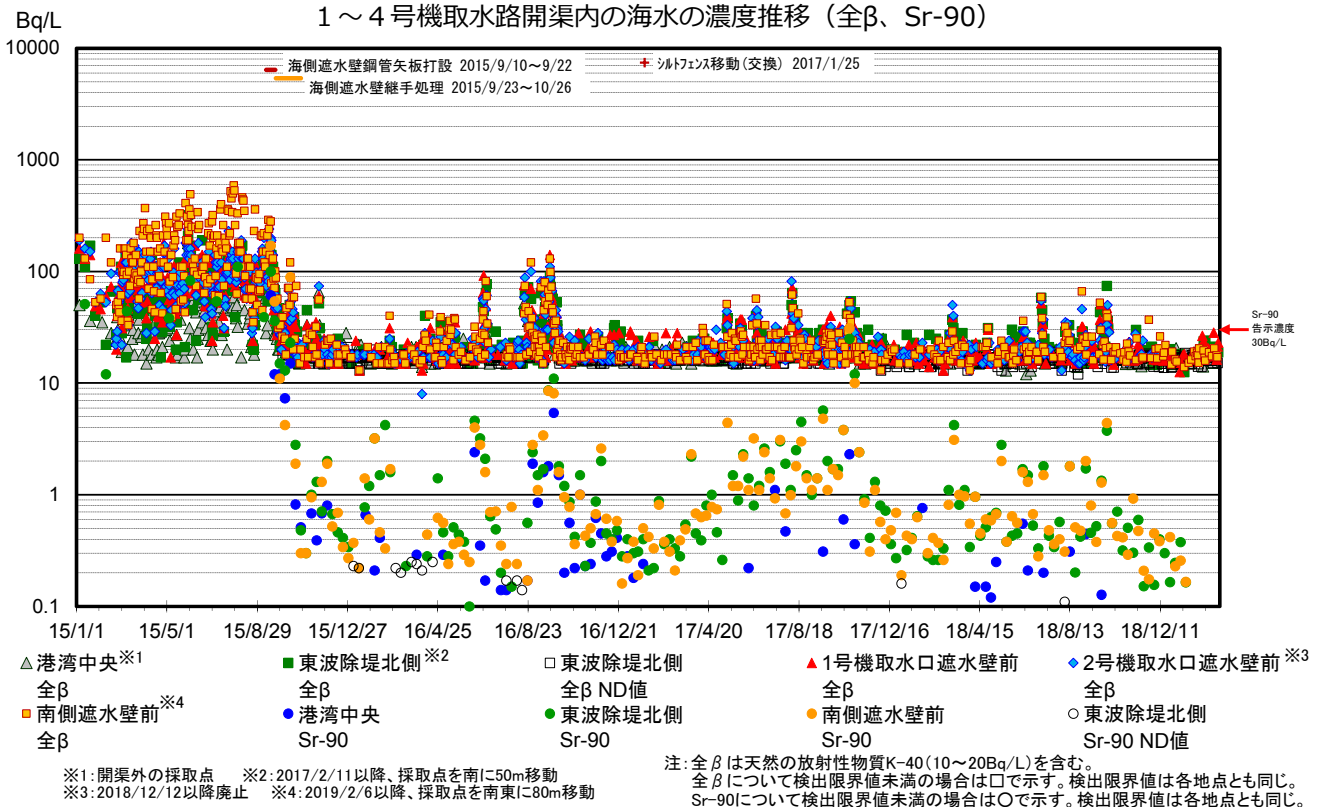
< 港湾内エリア >

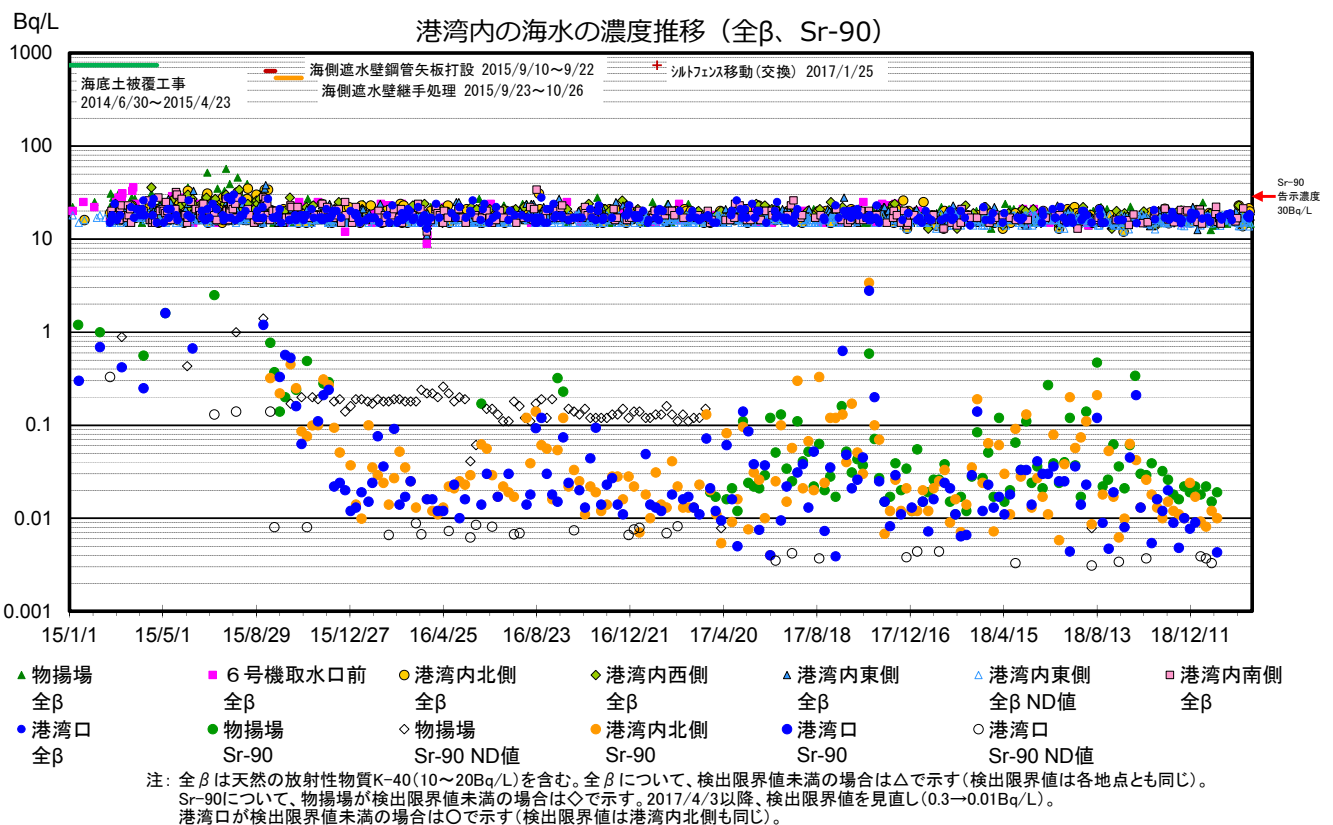
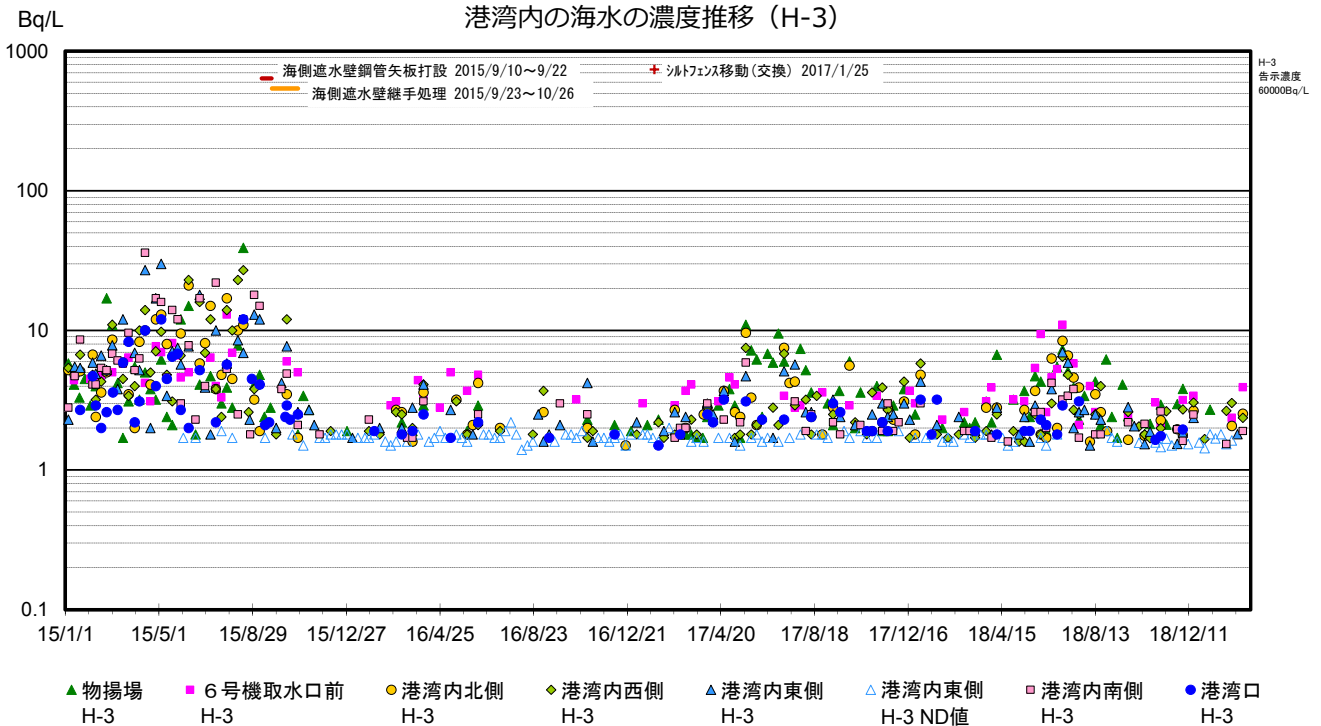
- 告示濃度未満で推移しているが、降雨時にCs-137濃度、Sr-90濃度の上昇が見られる。
- 1～4号機取水路開渠内エリアより低いレベルとなっている。
- 海側遮水壁鋼管矢板打設・継手処理の完了後、濃度の低下が見られる。

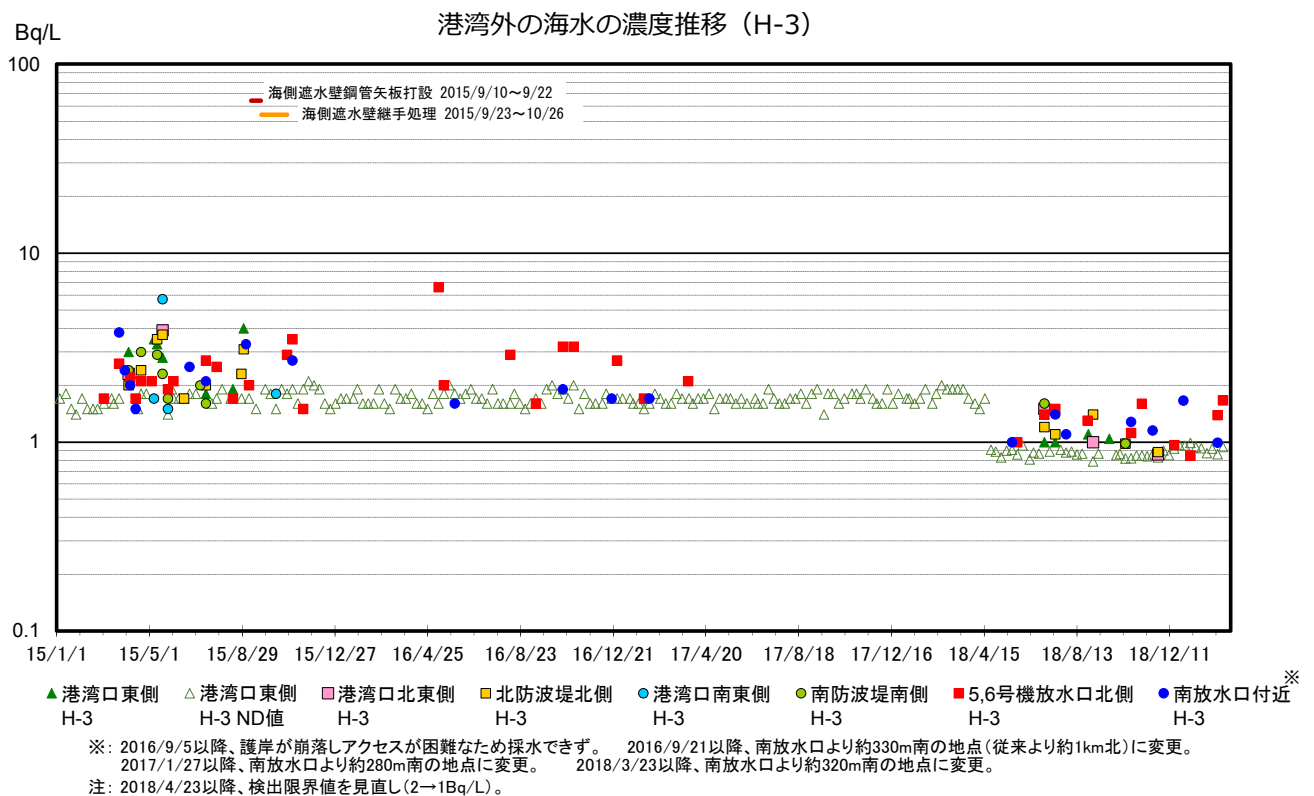
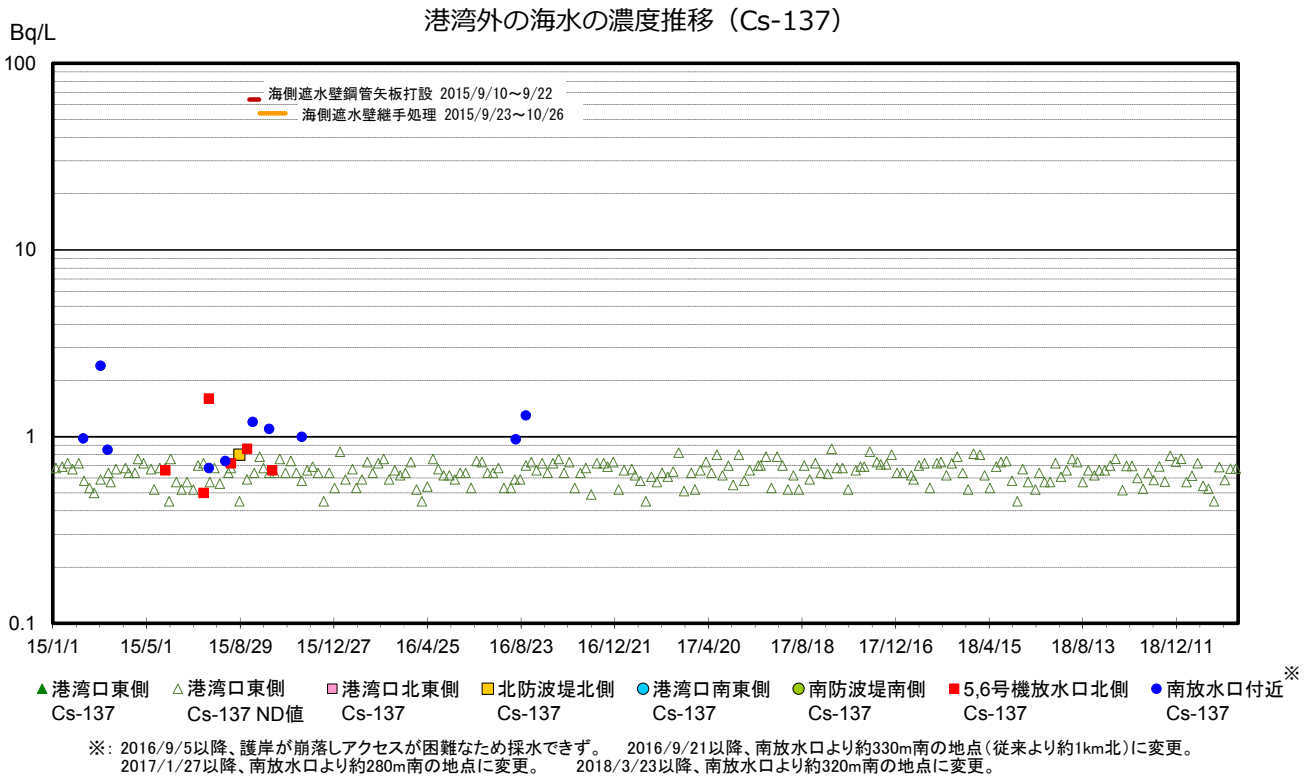
< 港湾外エリア >

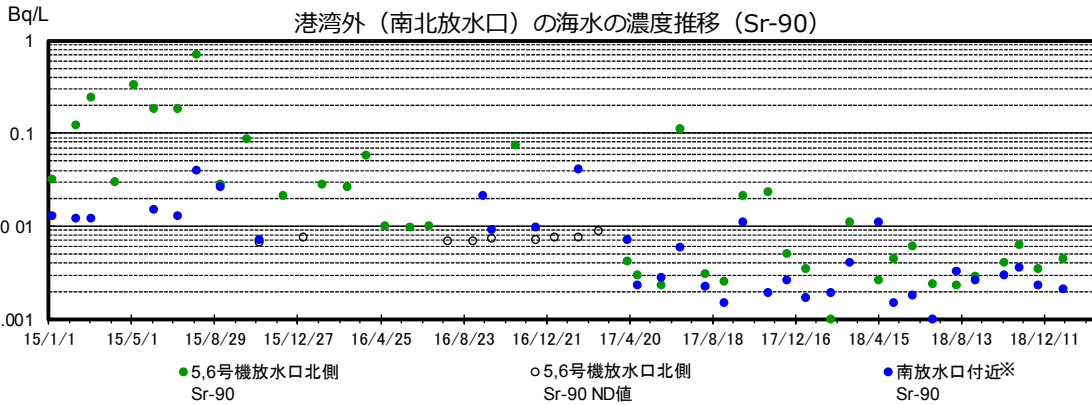
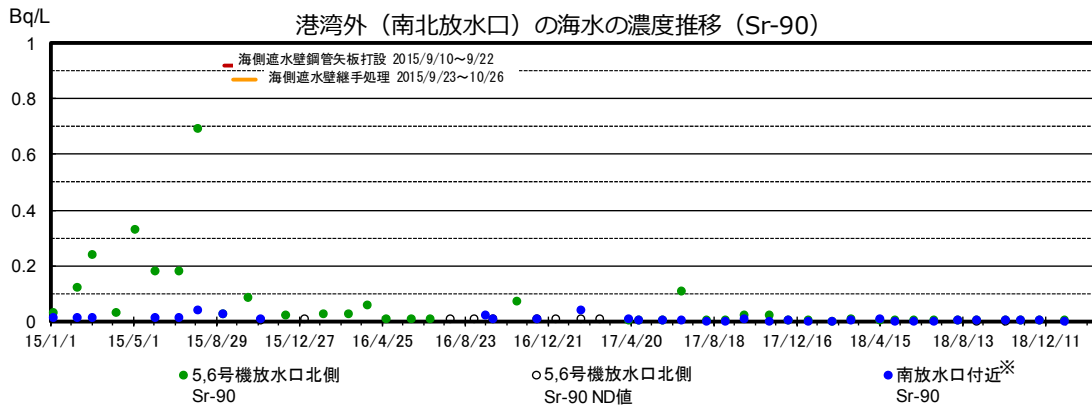
- 海側遮水壁鋼管矢板打設・継手処理の完了後、Cs-137濃度、Sr-90濃度の低下が見られ、低い濃度で推移していて変化は見られていない。







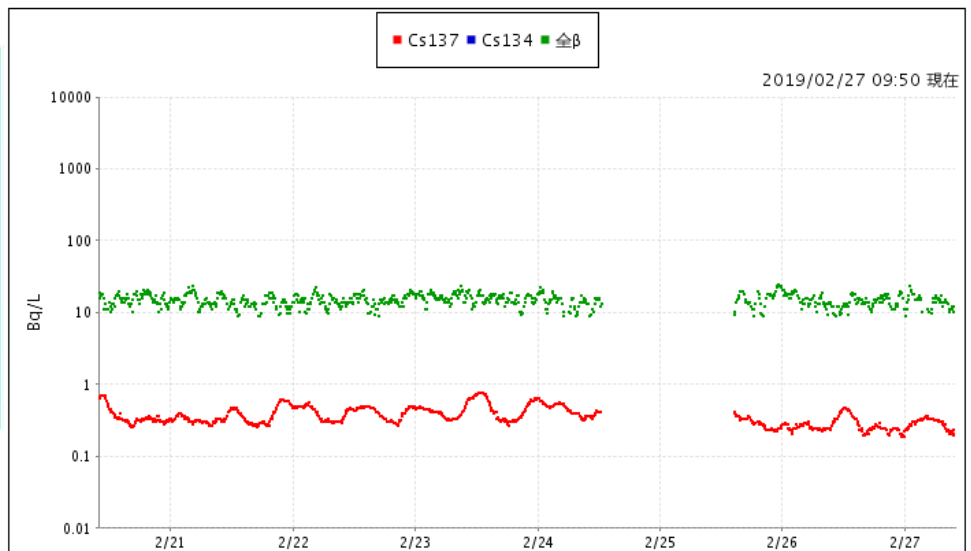




注: 2017/4/17以降、検出限界値を見直し(0.01→0.001Bq/L)。検出限界値未満の場合は○で示す。検出限界値は各地点とも同じ。

※: 2016/9/5以降、護岸が崩落しアクセスが困難なため採水できず。2016/9/21以降、南放水口より約330m南の地点(従来より約1km北)に変更。2017/1/27以降、南放水口より約280m南の地点に変更。2018/3/23以降、南放水口より約320m南の地点に変更。

<参考> 港湾口海水モニタの測定結果



※検出限界値未満 (ND) の場合は、グラフにデータが表示されません。(検出限界値)

- ・セシウム (Cs)134 : 0.02 Bq/L
- ・セシウム (Cs)137 : 0.05 Bq/L
- ・全β : 8.7 Bq/L

※海水放射線モニタは、荒天により海上が荒れた場合、巻き上がった海底砂の影響等により、データが変動する場合があります。

※参 考 「福島第一原子力発電所原子炉施設の保安及び特定核燃料物質の防護に関する規則」に定める告示濃度限度は、以下の通り。

- ・セシウム (Cs)134 : 60 Bq/L
- ・セシウム (Cs)137 : 90 Bq/L

○ 2019年2月24日12時27分に設備不具合により停止しました。2月25日14時22分に復旧作業が終了し起動しております。

○ 設備の不具合および清掃・点検保守作業等により、データが欠測する場合があります。